

### 平成 31(令和元)年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	千曲市 姨捨の棚田振興事業
事業主体 (連絡先)	千曲市 経済部農林課農村振興係 <a href="tel:026-273-1111">tel:026-273-1111</a>
事業区分	⑥-イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト、ハード
総事業費	6,685,476 円 (うち支援金 : 2,849,000 円)

#### 事業内容

##### 1 都市農村交流拠点整備事業

姨捨の棚田の唯一の交流拠点である姪石苑の改修を実施した。トイレを汲み取り式の洋式トイレ2基から、水洗の洋式トイレ2基、男子トイレ2基へと改修を実施した。

電気の引き込みを行い、夕方の打合わせやイベントでの動画放映などの活用を実施した。

・令和元年9月30日 竣工

オーナーのアンケートでもトイレ改修の記述が多く寄せられた。また、各保全団体の都市交流場としても利用頻度が増え、多くの人の交流場となった。

また、新たなる、地元中学校がオーナーとなり、その要因になっている。



姪石苑改修完成

##### 2 観光周遊ルート周辺整備事業

案内看板の設置、ベンチの設置を行った。既存の観光ルートだけではなく、バス回転場からのルートから姪石苑への看板を設置することにより、多くの観光客を交流拠点へと呼び込むことができた。それにより、観光客や保全団体との交流にもつながった。

ベンチは、姪石苑、東屋に設置し、イベント時に多くの方が休憩場所として利用することができた。



左：作業前（5月13日）右：作業風景（7月14日）

##### 3 資源発掘調査事業

栽培が安易で、復田が難しい棚田に保全団体と市、県でミョウガの試験栽培を実施した。また、地権者に対して、アンケート調査を実施し、姨捨地区の現状を把握することができた。

ミョウガの試験栽培では、荒廃田を5枚解消し、新芽を棚田オーナーが採取する姿がみられ、来年以降が楽しみという声をいただいた。

アンケート調査については、対象者 162 人、回答者 104 人、回収率 64.2%となった。営農業況や後継者、今後の営農方針を中心に記入していただき、今度の振興方針に重要な結果を得られた。

#### 【目標・ねらい】

毎

- ①安定した儲かるあんず栽培と
- ②あんずのブランド化で
- ③あんず産地の活性化を図る

#### ※自己評価【 B 】

##### 【理由】

ブランド化を進めてきた生食用あんずの「杏月（きょうづき）」を一つの商品として市場に出すことができた。

一方で、安定的な生産や凍害・省力化対策試験については、引き続き経過観察を行う必要がある。

次年度は上記に加え、反射材敷設試験や加工用あんずの単価向上についても事業を展開し、更なる産地の活性化に繋げたい。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

令和2年度の事業では、

①交流拠点である姪石苑をさらに改修し、人が集まり交流が生まれる拠点づくりを推進する。また、交流拠点だけではなく、雷雨等での避難場所としても利用できるよう、姪石苑の内装を改修し、多くの人が利用できるようにする。

②試験栽培を行ったミョウガの活用として、オーナーの収穫体験や地元中学校が実施している流しそうめんへの活用を行う。また、山椒の試験栽培も実施し、棚田米の有効活用として、せんべいやおかき、アイスといった新たな商品の開発も行う。

棚田米のブランディングを行うため、姨捨地区の方を対象にセミナーを開催し、栽培意欲の向上を目指し、荒廃農地の減少を目指す。

### 平成31年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	白鳥園協働の公園づくりプロジェクト
事業主体 (連絡先)	白鳥園協働の公園づくり実行委員会 026-274-1971
事業区分	⑤環境保全、景観形成に関する事業 ⑧その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,945,159 円 (うち支援金: 2,145,000 円)

#### 事業内容

1. 市民の森づくり  
身近な緑(森)をつくり守る活動、身近な緑の大切さを次世代に伝える活動として、協働による市民の森づくり
2. 市民交流花壇(アートガーデン)づくり  
残された由緒ある日本庭園、記念樹、岡本太郎オブジェに注目し、アートとガーデンを融合させた市民交流花壇の整備
3. 花と緑をたのしむ仲間づくり  
花と緑を楽しむ個人・団体のスキルアップを図り、協働の公園づくりの担い手を発掘するために講習会の開催
4. 協働の公園づくり研究会  
専門家を交えた研究会を通してデザイン・設計、また継続的な管理をできる技術的支援、体制づくりの検討



【市民交流花壇の様子】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

広大な敷地をどのように整備していくかという課題に対し、対象としている公園想定面積約 13,000 m<sup>2</sup>のうち、約 2,000 m<sup>2</sup>を森づくり、約 280 m<sup>2</sup>を市民交流花壇の整備を行った。

市民の森ゾーンは、部分的であっても公園の囲み効果、周辺建物に対する修景効果が生まれる。また、市民交流花壇エリアには、旧日本庭園が隣接し、岡本太郎オブジェもあることから、公園の特徴付けが可能となった。

一人でも多くの賛同者を増やし、ボランティアの力で花と緑の公園を手づくりすることで市民が公園に愛着を持つという課題に対しては、台風19号の影響により森づくりや植栽イベントの参加人数は少なかったものの、現在ガーデンサポーター登録者は 58 名になった。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

市民の森ゾーンは、部分的であっても公園の囲み効果、周辺建物に対する修景効果が生まれた。また、市民交流花壇エリアには、旧日本庭園が隣接し、岡本太郎オブジェもあることから、公園の特徴付けが可能となった。なお、本支援金を継続活用により市民の森と市民交流花壇の整備を完了させ、その後は、樹木や花壇の管理を将来に渡し継続するものであることから、本実行委員会が主体となり市民を巻き込む交流事業などを継続展開しながら管理を行っていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

#### 【目標・ねらい】

- ①身近な緑(森)をつくり守る活動、身近な緑の大切さを次世代に伝える場所
- ②花と緑を通した市民(団体)交流の場、花種等の育成及び交換場所
- ③情報交換などができる市民活動の拠点づくり
- ④市民を巻き込み、緑化活動の仲間づくりを進め、将来の公園管理体制の確立

#### ※自己評価【 A 】

- 【理由】
- ・荒廃部分の整備により修景効果が上がり公園としての居心地が向上
  - ・ガーデンサポーターが約 30 名より 58 名に増加
  - ・台風の影響もあったが、多くの市民がイベントに参加

### 平成31年度(令和元年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地元にある桜を活かした自然学習推進・協働による桜維持管理事業
事業主体 (連絡先)	治田公園桜再生プロジェクト実行委員会 (事務局 堀内 太一 026-272-8072)
事業区分	5 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	850,749 円 (うち支援金: 650,000 円)

#### 事業内容

千曲市稲荷山の治田公園は、市管理の公園部分と西武土地改良区管理のため池部分と治田神社管理の境内地を総称して治田公園と呼ばれている。

本事業は、地域住民が地域の発展と安寧を願い植林した桜の木(約200本)を維持管理していき、地元の子供達を対象とした自然体験会や写生大会の開催、治田公園の魅力を地域及び観光客にアピールするためのフォトコンテスト、案内用のチラシ製作を行い、広くアピールできる公園として発展させていき、身近にある自然についての住民意識の向上につなげる。



【植樹祭】

#### 【目標・ねらい】

- ①治田公園の広いPRによる観光客等の増加
- ②地元住民で守っていくという住民意識の向上

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①リーフレット・ポスターの作成、治田公園桜写真・絵画コンテストの実施により、普段訪れない人に治田公園の桜の魅力を伝えられた。

千曲市白鳥園に今年度は掲示し、掲示作業中には桜の季節に見に行ってみたい等の声が多く、治田公園の桜の魅力を伝えられていると思う。

②樹勢回復作業や植樹祭を通して治田公園の桜を地元で守っているという、地域住民意識の向上につながった。利用者・観光客からは感謝の声もあり、活動の成果が出てきている。

#### ※自己評価【B】

【理由】  
台風の影響により、実施できない事業もあったが、PR活動や住民意識の向上には一定の効果が得られたと感じる。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

写真・絵画コンテストは継続して実施していき、令和元年東日本台風の影響により実施できなかった自然環境学習会を行い、身近にある自然に触れ合う機会を増やしていく。

令和2年度も元気づくり支援金を活用して事業を行う予定だが、自己資金による活動に切り替えていきたいため、地元企業等より協賛をいただけるように活動していく。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯縄山麓発 「白地図を夢色に 2」 刊行事業
事業主体 (連絡先)	白地図をぬろう会 長野県上水内郡飯綱町大字黒川 1300-21
事業区分	5 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,452,000 円 (うち支援金 : 1,161,000 円)

#### 事業内容

10 年前に刊行したガイドブックの続編(発展版)として、内容も装いも新しくしたガイドブックが、地域住民の素朴な目線で編集され、発刊された。

- ・ 6月～3月 : 1回/月 以上の頻度で編集会議を開催
- ・ 6月、7月、9月、10月 地元小学校のクラブ活動「探検・自然クラブ」の活動支援(4回)
- ・ 10月18日 斑尾川源流域の現地調査(「未来のこともラボ実行委員会」との合同調査)9名参加
- ・ 3月、「～飯縄山麓発～続・白地図を夢色に」4000部を印刷・製本
- ・ 3月 飯綱町や観光協会、博物館等にガイドブックを配布



【斑尾川源流現地調査】

#### 【目標・ねらい】

- ①地域の宝ものの再発見
- ②地域の見どころを記録
- ③新発想のガイドブックの刊行
- ④地域の魅力の発信と普及

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・ 支援金を活用し、過去 10 年にわたり記録をすすめてきた知見を盛り込んだ新しいガイドブックを刊行することができた
- ・ 装いも内容も一新されたガイドブックが配布され、学校、役場、観光等のさまざまな場で楽しく利用される環境が整った
- ・ 新しいガイドブックを作成するという目標ができたおかげで、小学校のクラブ活動への支援や他団体と連携した合同調査などを意欲的に推進することができた

※自己評価 【 A 】

【理由】  
子どもたちから、地域住民、観光客などにまで、幅広い人たちに楽しく活用してもらえそうな、新たなガイドブックが出来上がった。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・ 令和 2 年度の新学期が始まった時点で、地元の小学校 4 年生以上、中学生、高校生、教職員のすべてに新しいガイドブックを配布し、地域の魅力への理解をさらに深めてもらう予定で、すでにその時期や配布方法について教育委員会と相談中
- ・ ひきつづき、このガイドブックを教材にした地元小学校のクラブ活動に支援を行う
- ・ ガイドブックを活用した見学会等を企画・開催したり、関連イベントへの協力を行う
- ・ 町が進める「景観計画策定協議会」や「環境教育等推進協議会」、「文化財調査委員会」等において、ガイドブックを参考資料として効果的に役立ててもらおう

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

- 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
- 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある